



学校だより

5月号

横浜市立大道小学校
令和8年4月30日

竹の秋

校長 活田 宏輔

新年度が始まり、一ヶ月が経ちました。毎朝子どもたちと笑顔で挨拶を交わしています。初めは表情の硬かった子どもが安心した表情で登校する姿をたくさん見えています。入学間もない1年生の言葉を聞きました。「あーあ・・・」ため息をつくのかと思いきやそのあと「きょうもがっこう、たのしかったな。」「がっこうのぎゅうにゅうはおいしい。いえではのめないのに。」「あたらしいはてなをみつけたよ。」「きょうもスーパーいちねんせいになっちゃった。」こんな素敵な会話を聞くことができる大道小・・・私も「4月も学校、楽しかったな。」

さて、先日筍を掘る機会があり、卒業生の懐かしいエピソードを思い出しました。入学した中学校の国語の最初の授業で、春の季語について知っている言葉を発表したときのことです。小学校では俳句や短歌に親しんでいたその生徒は、「竹の秋」と答えました。するとクラスのみんなが笑ったのです。春の季語に秋という言葉は違和感があったのでしょうか。すると国語の先生が「素晴らしい答え！」と竹の秋の話をしたそうです。クラスのみん中は理解を深め、その後生徒の発表を称賛したとのことでした。

「雨後の筍」の文字通り、一雨ごとに筍がぐんぐん伸びています。農夫が作業中に筍に帽子をかけたままにしまい、次の日に帽子を取ろうとするとすでに手が届かなかった…との逸話もあります。筍に十分な栄養を与えているのは、大人の竹です。大人の竹は筍にたくさん栄養を与えるために葉が黄色くなりやがて落ちます。竹の紅葉です。今の季節の竹林を見てください。竹の葉が黄色く色付いていることに気が付きます。竹の1年でみると、今の季節は秋。つまり「竹の秋」は春を表しているのです。



前述の1年生の姿が筍の生長と重なります。友達の発言を笑いその後態度を改めて友達を称賛した生徒の姿も、自信をもって「竹の秋」と答えた生徒の姿も、伸び盛りの若竹の姿に重なります。我々大人は、すくすく伸びる子ども達を色づく竹のように温かく見守りたいと改めて思う今日このごろです。



← 学校 WEB ページはこちらから